

『多摩大学生のAEDに対する意識調査』

末長真治 (22011176@tama.ac.jp)

1. はじめに

2014年から一般市民によるAEDの使用率は徐々に上昇し始めて2019年には一般市民によるAEDの使用率は5.1%まで上昇した。しかし、2020年にはAEDの使用率が4.2%に低下し、2021年には4.1%と二年連続で下がり一層の懸念が広まった。

2. 先行研究の分析

木下、岩井^[1]は学生の救命講習に対する意識調査に焦点を当て、広島商船高等専門学校の商船学科4年生と全学科1年生を対象にし、比較する形で報告している。調査結果を単純集計したものを比較することとしている。救命講習の内容の一つである心肺蘇生法について、これまで行ってこなかった実技による講習を昨年度より実施している。また同じく昨年度より、1年生を対象として、保健の授業において心肺蘇生法の実践を行っている。研究方法としては、心肺蘇生法を学んだ全学科1年生及び商船学科4年生にアンケート調査を実施し、心肺蘇生法についての意識及び理解度の確認を行った結果について報告をしている。救命講習前と救命講習後でAEDの説明や使用方法胸骨圧迫など属性に関わらず、9割もの学生が受講後にどの程度理解できたか、身に付いたかなどの質問に対して、ポジティブな回答をしたという結果を明らかにしている。特に商船学科4年生については「できない」などのネガティブな回答をした学生は一人もおらず、自信を持って「確実にできる」と回答した学生が多く見られたことを明らかにした。

[1] 岩井一師、木下恵介 2016「救命講習に対する学生の意識調査」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/hiroshimashosenkiyo/38/0/38_21/_pdf/-char/ja (参照 2022-11-22)

3. 研究方法

- ・アンケート集計
- ・資料調査

4. 調査結果

調査対象者: 多摩大学学生157名

、AEDの使用方法や救命活動に対する意識に焦点を当て、多摩大学生のAEDに対する意識に関するアンケートを行った。そのアンケートを分析した結果、以下が明らかになった。

①AEDに関する知識不足

②救命講習内容の把握における課題

③AEDを使用する際の不安や責任感が大きい

④異性にAEDを使用することへの違和感

調査対象者のAEDに関する知識不足、救命講習内容の把握における課題、AED使用時の不安や責任感、異性に対するAED使用の違和感が明らかになった。多くの人がAEDの使用方法に対し不安を抱いていて、救命講習内容の把握にも課題が存在している。特に、AEDの使用に関する不安や責任感の大きさは、使い方を知る知らないに限らず全員のAEDの利用を妨げている。また、異性にAEDを使用する場合に生じる違和感なども障壁となっている。

AEDの使用率低下の現状を受け止め、今後、AEDの普及と正しい使用を促進するためには知識の普及だけでなく、配置に関することや使用時の不安、異性に対する問題などを対処していく教育が課題になる。また、学校や企業での教育体制を充実させ、継続学習を支援する環境を整備することが課題である。

参考文献

[210122-1houdou_h.pdf \(fdma.go.jp\)](https://www.fdma.go.jp/210122-1houdou_h.pdf)